



## 原子力発電所では、万が一の重大事故に備えた訓練を繰り返し行っています

原子力発電所において、万が一の重大事故等が発生した場合に、あらゆる事象に速やかに対応するため、緊急時の体制や手順を整備し、さまざまな訓練を繰り返し行い、対応能力の維持・向上に努めています。



電源供給訓練  
(中容量発電機車の  
電源ケーブル接続)



電源供給訓練  
(可搬型電源の設置)



冷却水供給訓練  
(可搬型電動注入  
ポンプの設置)



放射性物質拡散抑制訓練  
(放水砲の設置)

### ■ 川内原子力発電所の緊急時の体制

勤務時間外や休日(夜間)でも、重大事故が発生した場合に速やかに対応するため、一班52名の対応体制を整備し、発電所やその周辺に常駐しています。

区 分	人 数	
緊急時対策本部要員	4名	52名
運 転 員	12名	
重大事故等対策要員	36名	

※玄海原子力発電所の重大事故等対策要員の体制についても、整備していきます。



この他にどのような取組みを行っているの？

詳しくは裏面へ

# 県が主催する原子力防災訓練に参加し、 原子力防災組織が有効に機能することの確認や 防災対策の習熟を図っています。

## 県主催の原子力防災訓練(川内原子力発電所)



通報連絡訓練



要支援者の避難訓練



緊急時対応訓練(給水確保)



後方支援拠点の設置・運営訓練

2015年12月、川内原子力発電所の重大事故の発生を想定して、鹿児島県による原子力防災訓練が行われ、当社も事業者として参加しました。

### 【当社訓練の概要】

- ・通報連絡訓練  
事故状況等に関する情報を、社外関係機関等に通報する訓練
- ・要支援者の避難訓練  
要支援者の福祉車両への乗降補助、指定避難先への搬送訓練等
- ・緊急時対応訓練  
電源復旧、可搬設備等を使用した冷却手段の確保等、対応能力の向上を図る訓練
- ・後方支援拠点の設置・運営訓練  
事故収束活動を発電所外から支援する後方支援拠点における現地設営・運営訓練

# 川内原子力発電所の更なる安全性・信頼性向上への 取組みとして、耐震構造の緊急時対策棟を新たに設置 する計画を国へ申請しました。[免震重要棟(当初計画)から見直し]

## 【計画の概要】(2016年3月申請)

- ・事故時の指揮所、緊急時対策要員の休憩室等の支援機能を有し、要員の収容スペースを十分確保できる耐震構造で大型の「緊急時対策棟(指揮所)」を新たに設置

### 【安全性向上の内容】

- ・広くて使いやすい居住スペースの確保
- ・緊急時対策所機能と支援機能の分離による運用性の向上  
機能別にスペースを分離し、指揮命令や情報及び対応要員の輻輳を防止する
- ・放射線被ばく管理対策の向上  
出入管理室内の身体汚染測定等を行うエリアの拡張や換気設備フィルタユニットの屋外設置等、被ばく低減対策を施す
- ・豊富な実績を踏まえた設計の確実性  
耐震構造は、原子力施設の豊富な建設実績を踏まえ、設計を確実に行うことができ、免震構造より早期に完成できる見込み

## 【緊急時対策棟と免震重要棟の比較】

	緊急時対策棟 (今回の計画)	免震重要棟 (当初計画)
延床面積	約5,070㎡ (約6,800㎡)*	約6,600㎡
居住面積	約2,870㎡	約2,520㎡
収容要員	200人以上	最大200人
完成時期	2年程度早期完成	—

\*今回の計画で屋外設置とする機器の占有面積を含んだ場合

## 【概要図(断面)】

